

(第3種郵便物認可)

1975.8.30 40

# 人殺し兵器に能力使うまい

## バグウォッシュ・シンポ 原発への楽観論も否定

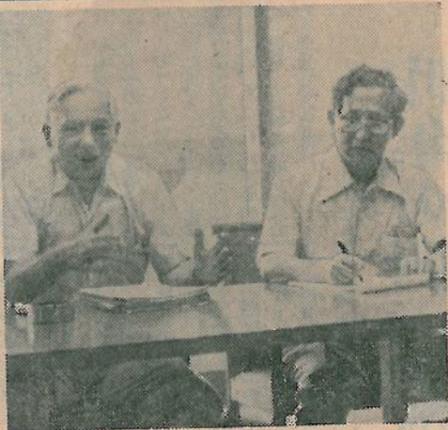
第2日

【京都】人類の生存を脅かす核兵器の完全廃絶の道を探る第二十五回バグウォッシュ・シンポジウム(非公開)は、二十九日夕二日目の討議を終わって、バグウォッシュ協議会のロートプラットフォーム代行(ロンド大教授とシンポジウム実行委の豊田利幸・名大教授が記者会見)の論議をう

ち立てた「ヒポクラテス(ギリシヤの医学者)の誓い」を科学者に適用し、科学者は自分の能力を

も適用し、科学者は自分の能力を問題の核軍縮への第一歩にわたって展開された。

①では「科学者は人殺しの手段づくりに能力を使わないと誓うべき」との具体的な提案が行われた。憲法で軍力をも定めている国もあって全会一致の意見とはならなかったが「科学者は大量殺りく兵器の開発のために働くべきでない」との点で一致。また「科学的研究その成果に秘密があつてはならない」との一致した姿勢が打ち出されたが、核兵器製造法、



討議の経過を発表するロートプラットフォーム (左)と豊田教授

企業秘密の問題もあつて、どう公表するかは結論は得られなかった。

核軍縮など核エネルギーの平和利用問題では、環境汚染問題や核保有国、非保有国など国境の違いかから激論が続いた。「平和利用も各管理の下に進めるべきだ」との方

向で一致をみた。しかしその具体的機関については、核を持たない第三世界を加えるなどの提案があつたが、意見は煮詰まらなかった。

また核拡散問題では「米ソを軸とした垂直拡散が核拡散のもとになっている」との共通の認識から「垂直拡散を止めなければ各国への核の水平拡散傾向はストップできない」と強く指摘された。原子力発電については、原子炉ができた

アルトニウムが核兵器につながるから、原発が増え続けることについての楽観論は否定された。

二十九日午後から始まった「核軍縮への第一歩」をめぐる討議は、まず米ソが大規模な核兵器削減をする、当面一〇%でも削減してみせることが新しい核軍縮のふんばりを生む」との意見や「毒ガス兵器について決められているように、核兵器についても人道

c092-17-024